



Annual Report

2022

活動レポート

2022.4-2023.3

Vision

YMCAが実現したい世の中の姿

互いを認め合い、高め合う
「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。

YMCA will work towards building communities in which people will respect and enhance one another to bring out their best. Rich and inspiring communities connected by people's "Positive Net".

Positive Net

互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、
善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。

Value

YMCAがステークホルダーに提供を約束する価値

したい何かがみつき、誰かとつながる。
私ができる、かけがえのない場所。

The YMCA is a very special space where you can encounter something,
connect with someone and transform yourself.

みつかる

Encounter

つながる

Connect

よくなる

Transform

メッセージ

Message from The Kumamoto YMCA



会長 **吉本 貞一郎**

Teiichiro Yoshimoto
President



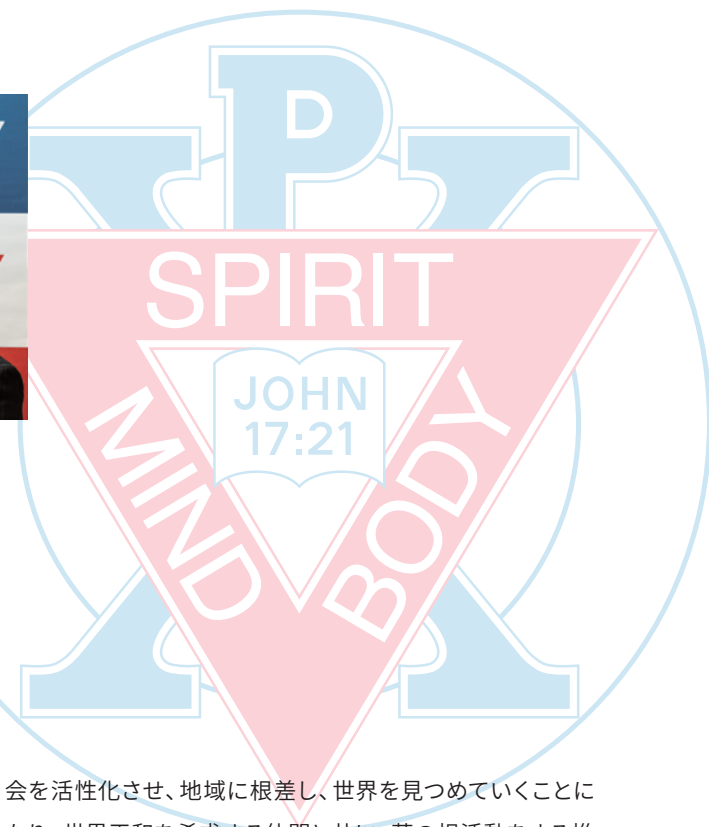
常議員会議長 **森 博之**

Hiroyuki Mori
Chair Person of the Board of Directors



総主事 **光永 尚生**

Hisao Mitsunaga
General Secretary



YMCAがなくてはならない存在意義を確認するための1年に

熊本YMCAは1876年の熊本バンドを源流として1948年に設立されました。日本国内では1880年に東京YMCAが最初に設立し、熊本YMCAは国内16番目に生まれました。

1844年、ロンドンで世界初のYMCAが設立された時代は、産業革命の退廃的な状況下で若者たちにとっては生きづらい社会でした。その最中にキリスト教信仰者であるジョージ・ウィリアムズら12人が集まり、共に祈り、よりよい社会を創るために会員運動を始めました。現在の熊本YMCAが職員のみならず、会員の皆様と社会課題を解決する会員運動を継続してきた所以であり、世界を見つめ、地域に生きる人の

集まりとして、国内、世界とつながっています。

その働きは、熊本地震、豪雨災害や新型コロナウイルス感染拡大禍にあっても、「はなれていてもつながっている」働きを生み出し、withコロナの時代の現在では「みつかる。つながる。よくなっていく。」新しい価値を創るための働きを進めています。

YMCAは、会員組織を土台とし、運動体として広がり、会員の皆様と職員の協働により、崇高なる目的（ノーブル・パーパス）を持つ組織として期待されています。また存在意義でもあるノーブル・パーパスに導かれ、人間のもつ素晴らしい力を解き放つ組織へと変容していきます。そのプロセスが、社

会を活性化させ、地域に根差し、世界を見つめていくことになり、世界平和を希求する仲間と共に、草の根活動をする推進力となります。

2022年中には学校法人が肥後銀行様よりポジティブ・インパクト・ファイナンス（PIF）の認定を受けたことによって本館の自己所有が可能となり、改めてYMCAの活動が社会的にどのような影響（インパクト）を与えているのか考える機会となりました。さらにSDGsを推進することで、誰ひとり取り残さない世界を実現するための働きを進めます。全ての皆様に心より感謝申し上げます。

YMCAについて About YMCA

YMCAとは

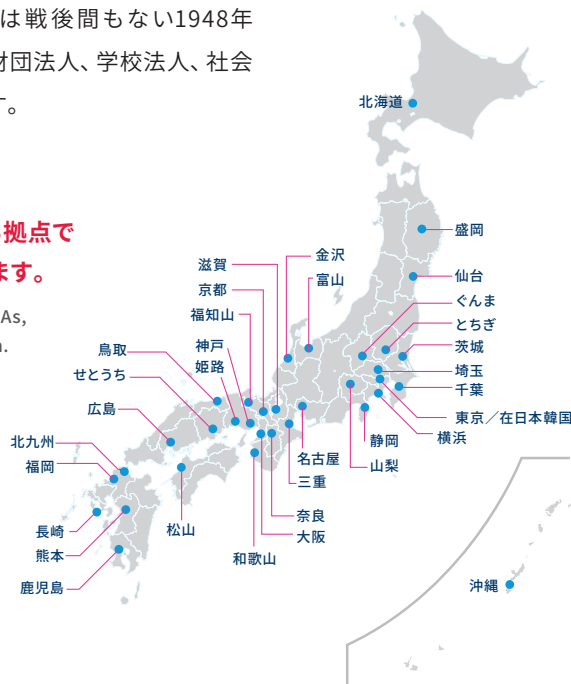
YMCAとは、Young Men's Christian Associationの略称で、キリスト教を基盤とする非営利公益団体です。世界120の国と地域で、およそ6500万人がYMCAの活動に関わり、日本国内では「みつかる。つながる。よくなっていく。」をスローガンに、地域や人々のニーズに合わせた多様なプログラムを提供しています。

YMCAは1844年、産業革命下のイギリス・ロンドンで、同世代の仲間たちの人格的成長や生活改善を願うジョージ・ウィリアムズ (1821～1905) ら12人の青年たちによって組織されました。

日本最初のYMCAは1880年 (明治13年)、東京で創設。現在では沖縄から北海道まで、約14万人の会員とともに活動しています。熊本YMCAは戦後間もない1948年 (昭和23年) に誕生し、公益財団法人、学校法人、社会福祉法人を軸に運営しています。

**日本のYMCAは、
全国35都市、200を超える拠点で
14万人が活動を行っています。**

About 140,000 Members,
35 YMCAs,
more than 200 Facilities in Japan.



YMCAの活動領域

1 子どもの成長に寄り添う 子育てと子育て

保育やアフタースクール、ウエルネスや語学教育といった体験や出会いの場と機会を通して子どもたちの成長に寄り添っています。



2 若者の力を信じる ユースエンパワメント

幅広い分野の学校や学習の場、ボランティア活動を通して、若者の人間力を育み、その成長を力強く支援しています。



3 健やかな生活を支える 生活クオリティの向上

健康寿命の延伸や知的好奇心の追求を共にし、社会とつながる機会を提供することで人々のいきいきとした健やかな生活を支えます。



4 社会貢献の地域基盤となる 社会に貢献

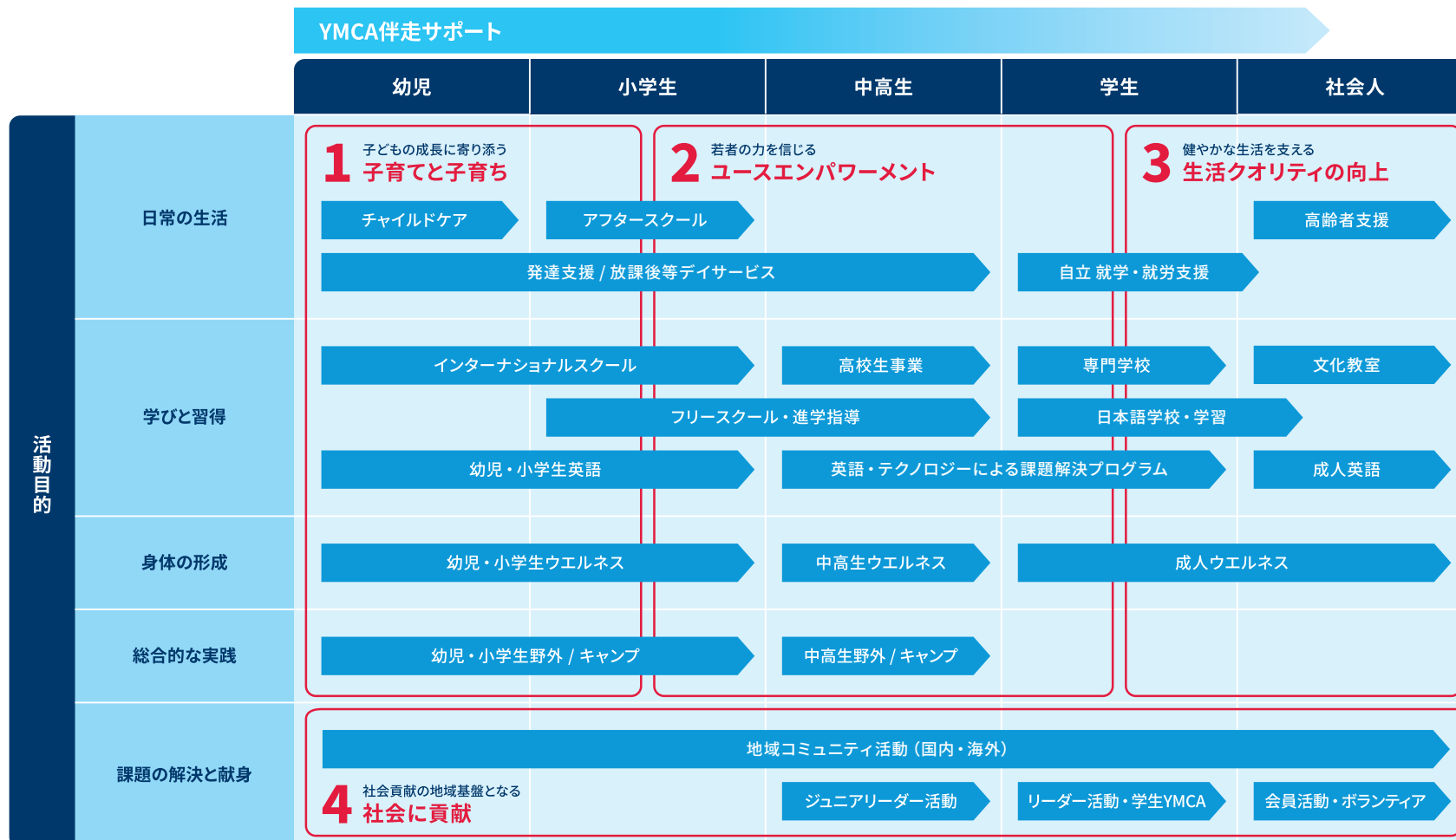
災害支援やいじめ防止アクション、チャリティ活動など、日本と世界に広がるネットワークを活かして社会貢献の輪を広げています。



YMCAの全人的成長プログラム YMCA's Holistic Education Programs in Japan

YMCAブランドの約束と実行をさらに結びつけるために

YMCAブランドの多岐にわたる活動を、4つの領域（赤枠1〜4）と5つの目的（「日常生活」ほか）で整理し、私たちの全国での活動を一瞥で「見える化」しました。
とりわけ、私たちの共通の強みである「個人に寄り添う力」を、子育て・子育て領域から発揮するための新たな取り組みとして「YMCA伴走サポート」を推進していきます。



熊本YMCA 3ヵ年計画

Three-Year Plan 2021-2023

熊本YMCA × SDGs

熊本YMCAは、熊本YMCAの使命実現を通して、また、ポジティブネットのある豊かな社会の創造を目指したYMCAの様々な活動を通して、誰も取り残さない持続可能な開発目標の達成を目指しています。



熊本YMCAの使命

1995年5月策定

熊本YMCAは、熊本バンドの精神をうけつぎ、イエス・キリストによって示された愛と奉仕のわざに励み、青少年の精神・知性・身体の調和のとれた全人的成長を願い、すべての人々がひとつとなるための働きを行います。

1. 共に生きる社会 2. 地球環境の保全 3. 生涯学習の推進 4. ウェルネス活動 5. ボランティア活動 6. 平和な世界

熊本YMCAポジティブネット創造3ヵ年運動計画 Vision2028 2021-2023

みつかる。つながる。よくなっていく。

I. 会員増強 <みつかる>

行動指針：YMCAメンバーシップバイデザイン

YMCAに集うファン（メンバー）をオーナーシップの発揮ができる担い手会員へと導くための働きかけを行います。また、ファンド事業の拡充に取り組みます。

II. 人を育む <つながる>

行動指針：YMCA伴走サポート

YMCAブランドの約束と実行を結びつけるためにさらなる人のつながりを創出します。

III. 持続可能な社会づくり <よくなっていく>

行動指針：【熊本YMCAの使命×SDGs】

持続可能な開発目標（SDGs）に照らし合わせ、熊本YMCAの使命実現のための地域防災の取り組みやパートナーシップ事業を展開します。

熊本YMCAの3法人
は、熊本県SDGs
登録事業者
に認定
されています



©2010熊本県くまモン

熊本県SDGs登録事業者

公益財団法人 熊本YMCA

学校法人 熊本YMCA学園

社会福祉法人 熊本YMCA福祉会

2023年度 熊本YMCA運営方針

Policy for 2023



「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。
門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」 マタイによる福音書7章7節

“Ask and it will be given to you; seek and you will find; knock and the door will be opened to you.” Matthew 7:7

I 熊本YMCAの使命実現を目指した事業を 今まで以上のスピード感で推進します。

- SDGsを実現できるための事業推進母体としてICR(国際・地域・コミュニティ)の活動を触媒として用います。
- 熊本バンドに続くものとしてYMCAの「歴史観、世界観、マネジメントの実行」を通して社会課題の解決と熊本YMCAの使命実現に寄与できる組織運営を目指します。
- 熊本YMCA創立75周年を記念した活動を推進するとともに、「熊本YMCAリ・デザイン計画」を遂行することで、会員組織の活性化へのアプローチを試みます。

II 情報の見える化を更に進めるような情報発信を 活発に行い、YMCAの使命を伝えます。

- YMCA内外に向けた発信を通して、ふるさと納税の活用、遺贈制度の活用、年末募金による社会課題解決へのアプローチなどの会員運動を地域の中で拡大していきます。
- 防災・減災の取り組みや啓発に関する発信を行い、高齢社会の中でも地域のプラットフォーム(土台となる環境)としての居場所となり、災害に強い地域のコミュニティづくりに寄与します。
- 子育て子育て分野での情報発信を強化しながら、そっと寄り添える伴走型のプログラムの充実を図ることで、総合的な社会教育団体として地域に貢献していきます。

III リーダーシップ研修の充実を今まで以上に推進し、 教育の質の向上を目指します。

- キリスト教の精神を大切にす団体として、未来の担い手づくりのために、一粒の種が100倍に育つような種まきを行うプログラムを継続していきます。
- 国内外のYMCAや関係諸団体、地域、行政などとの情報共有を通じて、YMCA内外での研修、人材育成を活発に行い、社会の担い手づくりに貢献していきます。
- 離れていてもつながっていると感じ、つながりと関りを体感できる研修の機会と居場所を再生し、コミュニケーションスキルの向上を目指すプログラムを行います。

IV ガバナンス(組織統治)、コンプライアンス(法令順守)を 実行できる、YMCA組織運営を実行します。

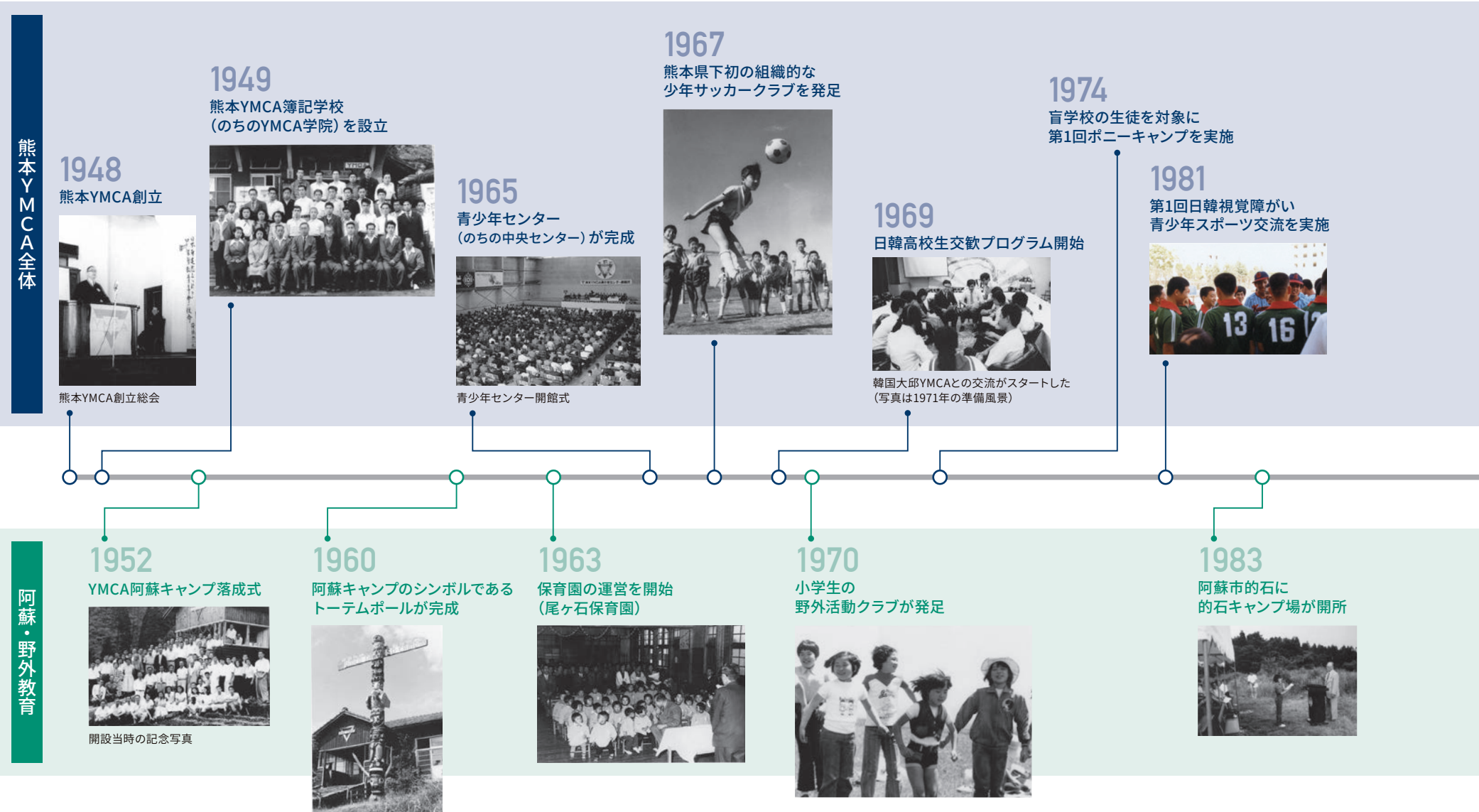
- 各法人の法令遵守を行うことはもとより、熊本バンドの精神を受け継ぎ、イエスキリストの愛と奉仕のわざに励む熊本YMCAの法人としての働きを推進していきます。
- 公益財団法人熊本YMCAの会則変更により、組織統治の特長を確認し、熊本YMCAが世界を見つめ地域に生きる活動を推進できる組織として運動の確立を目指します。
- 事業推進5カ年計画を策定し、法人間協働を今まで以上に推進し、熊本YMCAの総合力の強みや特長を明確にすることで、社会教育団体としての働きを強化していきます。

V ユースを信じ委ねる力を推進し、担い手となる 会員の育成と発掘を継続します。

- ユースの、ユースによる、ユースの為のプログラム推進に組織として支援を行うことで、明日のリーダーの育成を目指し、リーダーシップ向上に寄与していきます。
- 各事業と運動体の融合を図るために、ユース世代のスタッフ研修、内外研修への派遣、居場所づくりなどを推進するための組織的な活動を計画的に行っていきます。
- 国内外のユース同士の交わりの場を創ることと、交わりの場に派遣することで、YMCAの連帯と広がりを感じて体感できる環境でユースの成長を促します。

YMCA阿蘇キャンプ開設70周年 そして、熊本YMCA創立75周年へ History of the Kumamoto YMCA and YMCA Aso Camp

YMCA阿蘇キャンプは2022年8月に開設70周年を迎えました。そして、2023年、熊本YMCAは創立75周年を迎えます。これまでの熊本YMCAの歴史と、YMCA阿蘇キャンプや阿蘇地域での運動、野外教育の歴史の一部を振り返ります。



1993

第1回会員スポーツ大会を開催



第1回熊本YMCAチャリティーランを開催



2003

幼稚園の運営を開始
(水前寺幼稚園)



1994

第1回タイユースワーク
キャンプを実施



同年、タイ山岳民族の子どもたちの
支援活動をスタート

1990

熊本県下初の許可を受けた
日本語学校を開設



2016

熊本地震復興支援



県下最大級となった益城町総合運動公園
の避難所を運営

2021

熊本YMCA本館が完成



グローバルな人材育成と子育て世代、シニア層の支援を
目指す熊本YMCA本館

1995

熊本YMCAの使命策定

2007

熊本YMCA初の指定管理受託
(リフレスおおむた)



1999

YMCA阿蘇キャンプの
新メインロッジが完成



2000

YMCA阿蘇キャンプ
メインホールが
くまもとアートポリス
推進賞選賞を受賞

2012

九州北部豪雨や東日本大震災で
被災した子どもたちのための
「あそぼうキャンプ」を開催



2016

YMCA阿蘇キャンプが
熊本地震
ボランティアセンターを開設



2022

YMCA阿蘇キャンプ70周年



2023年3月21日(火・祝)に開催したYMCA阿蘇キャンプ70周年
記念式典

活動報告 Activity Report | Community Services

地域活動・ボランティア活動



YMCAインターナショナル・チャリティーラン YMCA International Charity Run

YMCAインターナショナル・チャリティーランは、障がいの有無にかかわらず全ての子どもたちが共に幸せに生きていける社会を目指して全国で開催されています。2022年度は全国18会場で実施され、ランナー、ボランティア、観覧(応援者)を含め総勢7,602名が参加しました。第7回熊本大会は11月27日(日)に益城町総合運動公園グラウンドでオープニングランを開催。晴天のもと220名が集まり、子どもから大人までが走ったり歩いたりしました。その後12月4日(日)までの8日間は参加者それぞれが走った距離をオンラインで申告。積算距離2022kmを目標として、「北海道札幌市羊ヶ丘展望台にあるクラーク像を目指して走ろう」を合言葉に総勢660名が走りました。結果、総積算距離は1875.5m。目的地には届きませんでしたが、北海道函館市までの距離に到達することができました。

ピンクシャツデー

Pink Shirt Day

2007年、カナダの男子学生がピンクのシャツを着ていじめに遭ったことを発端に世界各地に広まったいじめ反対運動「ピンクシャツデー」。熊本YMCAでは、その前後1週間をピンクシャツウィークとして取り組み、子どもたちや職員がピンクのものを身に着けました。

2月22日(水)、熊本YMCA学院では、フリースクールWING SCHOOL校長の田上善浩さんを招き、いじめについて考える時間を持ちました。田上さんによる講話に続いてこども保育科、健康スポーツ科、日本語科の学生5名が対談。「世界平和はクラスから」という田上さんからのメッセージを受け、「今からチャレンジしたいことは何か」という問いが投げかけられると学生から「クラスメイトとコミュニケーションを深め、互いに高め合っていきたい」などの思いが語られました。



オンライン交流会「宇宙の話をしよう」

Exchange Meeting Online "Let's Talk about the Universe"

6月11日(土)、カリフォルニア在住でNASAジェット推進研究所の研究者である小野雅裕さんを招いたオンライン交流会「宇宙の話をしよう」を開催。火星探査機が火星に到着した際の映像や、探査機が撮影した写真を交えながら現在行われている調査の様子が紹介されました。小野さんは「地球は小さい。その中に80億人が住んでいます。奪い合うのではなく、分け合って生きていかなければいけない」と子どもたちに語りかけました。



ユースエンパワーメント

Youth Empowerment

2022年度も多くのユースボランティアリーダーが野外活動やスポーツスクールで活躍しました。不登校の子どもたちの居場所づくりを目指し、2022年1月に特別プログラムとして始まった「ぷらっとほーむ」は2022年6月から毎週金曜日の定例プログラムとなりました。

活動報告 Activity Report | Community Services

地域活動・ボランティア活動

ポニーキャンプ

A Day Camp with Blind Children

7月27日(水)、みなみセンターのプールで46回目となるポニーキャンプをデイキャンプとして開催しました。熊本ワイズメンズクラブや熊本YMCA学院こども保育科の学生たちのサポートにより熊本県立盲学校の子どもたちが水遊びとカヌー体験を行いました。

プールにおもちゃやリングを沈めて拾って遊ぶ「宝探しゲーム」やすべり台をして楽しみ、大きいビート板に乗るなどしました。カヌー体験ではオールの使い方を習いながらプール全面を使って遊覧しました。参加者たちは船が浮かぶ感覚や水上を滑らかに進む感覚を存分に楽しみました。



熊本YMCA臨時会員大会

An Extraordinary General Meeting

2022年度は5月の定時会員大会に加えて、12月16日(金)に熊本YMCA臨時会員大会を開催しました。熊本YMCAがこれまで以上に多くの会員の意見を反映し、開かれた組織であり続けるため、またリーダーシップ育成のため、会則の変更を提案することを目的とし、YMCA本館とサテライト会場をオンラインでつなぎ、123名が参加しました。

熊本YMCA会長の吉本貞一郎さんが「YMCAは会員組織です。この度の会則変更は、会員運動の活性化を念頭に置いたものですので、皆さんぜひオーナーシップを発揮して協議をお願いしたい」と挨拶。総主事の光永尚生さんから熊本YMCA会則変更の件について説明がなされ、質疑応答の後、賛成多数により会則の変更が議決されました。



企業の社会貢献

Philanthropy

異なる企業の社員同士がともに集い社会貢献を行うYMCAフィランソロピー協会が、4月5日(火)、新入社員らを対象に「第27回新入社員ボランティア入門講座」を開催しました。講座には5企業・団体より25名が参加し、食事介助体験と高齢者疑似体験、車いす操作に挑戦。地域環境のあり方や日常生活の援助のあり方について考えました。

8月10日(水)、児童養護施設で暮らす小学5年生から高校生を対象に職業説明会「おしごとカフェ」を開催しました。子どもたちの自己決定力を育み、彼らの自立と就労を応援することを目的に2019年にスタート。YMCAフィランソロピー協会の会員企業をはじめとする7企業・団体が参加しました。企業のアピールとマナー講座の後、各企業・団体のブースを子どもたちがまわり、実際の仕事や働き方などについて説明を聞きました。

活動報告 Activity Report | Global Exchange and Cooperation

国際交流・国際協力



タイ里親運動

Foster Care Movement in Thailand

熊本YMCAはタイのチェンライYMCAと協力し、北部タイに暮らす山岳少数民族の子どもたちの支援に取り組んでいます。子どもたちは日本国内の里親の支援などを受けて、「若竹寮」で共同生活を送りながら、街の学校に通っています。

2023年春、若竹寮の卒業生のフィンチャノン・ウィチェルクさんがタイの弁護士資格を取得しました。フィンチャノンさんは、中学2年生から高校3年生まで若竹寮で生活。将来弁護士になって自分と同じアカ族の人々を助けたいという夢を持っていたフィンチャノンさんに対して、若竹寮卒業後も熊本ジェーンズワイズメンズクラブや日本福音ルーテル大江教会などによる支援が続けられていました。フィンチャノンさんは若竹寮のあるチェンライに戻り、故郷の人たちのために弁護士としての働きをスタートします。

その他、ミャンマーや東ティモールでも現地YMCAと共に子どもたちや若者の支援を継続しています。

台湾友好特別企画

Chatting about Japanese life and culture with Taiwanese

10月、台湾友好特別企画「YMCA日本語おしゃべりの会」がむさしセンターでスタートしました。海外企業の進出により、台湾の子どもたちがむさしセンターの水泳教室に通うようになったことがきっかけです。保護者や同郷のお友だちを対象に、生活に役立つ簡単な日本語や日本文化を紹介。同時に参加者から台湾のことを教えてもらう緩やかで和やかな勉強会です。3月31日(金)には特別プログラムとしてYMCA本館の施設見学の後、二の丸公園でお花見会をしました。



トルコ・シリア大地震緊急支援

Fund-raising Campaign for Turkey-Syria Earthquake

2023年2月に発生したトルコ・シリア大地震を受け、支援募金活動をスタートしました。熊本YMCAでも各拠点で募金箱を設置するなどして協力を呼び掛け、3月までに227,115円の募金が寄せられました。現地にYMCAがないため、トルコ・シリア国内に7カ所の拠点を持ち、震災直後から支援物資の提供などを行う「ACT Alliance (アクト・アライアンス)」を通じて支援を行います。

ウクライナ緊急支援

Emergency Support for Ukraine

2021年度から始まっているウクライナ支援募金を継続しました。日本のYMCAではヨーロッパのYMCAと連携し、ウクライナからの来日避難の支援、生活サポートを行っています。祖国から遠く離れた慣れない土地での長引く避難生活は、経済的な課題や心理的負担も大きくなります。深刻な孤立や孤独に陥らないよう、避難者一人ひとりの様子を注意深く見守ることを大切にしています。ヨーロッパYMCAによるウクライナおよび近隣諸国での避難者支援も、第三国での定住、就労、教育、健康など個別度の高い生活に密着したニーズに対応しています。避難をされている方がより安心して生活できるように活動を続けています。



事業報告 Business Report

公益財団法人

ウェルネス事業

Wellness - Health Education

子どもたちの生命を守り育むことを目的に「ウォーターセーフティーキャンペーン」に取り組みました。YMCA水泳教室内や県内の幼稚園、保育園、小学校で着衣泳体験を実施。また、「みんな泳げる25m運動」と称して近隣小学校の児童を対象とした水泳教室も行いました。

11月20日(日)、益城町総合運動公園でスポーツフェスティバルを開催。YMCAの体操、サッカー、ヒップホップ、チアダンス教室に通う子どもたちが日頃の練習の成果を発表しました。



野外事業・野外活動

Outdoor Education

野外活動クラブは、年中～年長児対象のADVENTUREクラス、小学1年～2年生のFUNクラス、小学生のACTIVEクラスの3クラスに分かれて活動。回を重ねる度にテント設営が上手くなったり、前月の活動で失敗した火おこしを、「この前は湿った木を使ったから失敗したから気を付けよう」「湿っていない木は、こうやって見極めるといいよ」と互いに話し合い取り組むなど、年間を通した活動の中で、子どもたちが自ら考え発見する力が育まれ、たくさんの成功体験を重ねることができました。

春、夏、冬に実施する季節ごとの単発キャンプにも多くの子どもたちが参加しました。大人も参加した夏休みの富士登山キャンプでは13名全員が無事山頂に到着することができました。

インターナショナル事業

International Education

年ごとにテーマを決めて行っているこどもえいごデイキャンプ。今年は火山をテーマに「Volcano Camp」を実施しました。YMCA阿蘇キャンプを会場に、多様な国の講師やキャンプリーダーたちと火山の仕組みを聞きながら、volcano(火山)、magma(溶岩)、rock(石)、lava bomb(溶岩石)などの新しい単語を学びました。阿蘇火山博物館も訪れ、火山の仕組みや自然の恵みについて英語を交えた説明を聞くことができました。阿蘇キャンプに戻り、噴火の様子を再現する実験にも挑戦。材料を混ぜると手作りの火山から溶岩が現れ、子どもたちは興味津々の様子でした。



毎週土曜日に、子どもたちが英語で過ごすグローバルキッズクラブは阿蘇市の会場がYMCA阿蘇キャンプから黒川保育園に変わりました。4月の活動では、広い園庭で「big, small, right, left, turn...」と身体をつかったアクティビティを楽しみました。

事業報告 Business Report

公益財団法人

幼稚園・保育事業

Childcare

2022年度の体育幼稚園こりすクラスはYMCA熊本五福幼稚園で4月～9月に開講しました。9月30日(金)に開催した修了式では、子どもたちが元気に歌の発表をしました。半年間の活動を通して、子どもたちの成長を感じることができました。

みなみセンターのぶどうの木幼稚園では、11月14日(月)に収穫感謝祭を開催。たくさんの食べ物が与えられていることに感謝する時間をもちました。各家庭から持ち寄られた材料を使い、団子汁作りに挑戦。2歳児うさぎクラス、3歳児きりんクラスはお野菜を洗い、コンニャクやキノコをちぎるお手伝い。4歳児こぐまクラス、5歳児バンビクラスは包丁を使ってニンジンやダイコンを切るなど、力を合わせて団子汁が完成、子どもたちは嬉しそうに食べていました。



リフレスおおむた 防災体験



御船町スポーツセンター わくわくスポーツ健康フェスタ

指定管理事業

Designated Management

2022年度、熊本YMCAは指定管理者として、リフレスおおむた、御船町スポーツセンター、益城町総合運動公園の運営を担いました。

リフレスおおむた

リフレスおおむたは、地域の自然や人々と共に体験活動を行っています。今年もほたる観察会や星空観察会を行い、自然の恵みと環境保全を考える機会を持ちました。また、小学生の野外活動クラブ「なんでもやる隊」では大牟田市防災危機管理室の協力のもと、12月18日(日)に防災体験を実施。防災シェルターや段ボールベッドの設営体験、非常食体験を行いました。様々な体験活動に取り組むとともに、陶芸、物づくり、クライミング、健康体操を通して地域の人たちの健康で文化的な生活を応援しました。

御船町スポーツセンター

10月10日(月・祝)、総合型地域スポーツクラブ フネッピー、御船町スポーツ推進委員連絡協議会、御船町スポーツセンターの3者共催で2年ぶりとなる「わくわくスポーツ健康フェスタ」を開催。ノルディックウォーキング、ニュースポーツ体験、健康運動教室、健康相談ブースに、延べ100名の参加がありました。参加者からは、「運動の機会が少なくなっていたので、とても楽しかった」などの感想が聞かれました。

益城町総合運動公園

熊本地震後の再建から3年目を迎えた総合体育館を中心に、様々なスポーツ大会や催しの会場として多くの利用がありました。陸上競技場ではYMCAインターナショナルチャリティーランやサッカーフェスティバル、体育館では体操・ダンスフェスティバルなどYMCA関連プログラムも行われました。また、主催事業としてソフトバレーボール大会やましき親子フェスティバルを開催し、盛況となりました。

事業報告 Business Report

学校法人

専門学校

Vocational School

熊本YMCA学院本科では、「専門教育」「キャリア教育」「人間教育」の3つの教育方針のもと、5学科で学生たちが学びました。

児童福祉教育科(こども保育科)

2023年1月22日(日)、児童福祉教育科の3年生が熊本市植木文化ホールで卒業発表会を開催しました。企画立案から演出、上演まですべてを学生が主体となってつくりあげました。発表会を前に12月21日(水)に劇団きららより講師を招き、表現ワークショップを実施。子どもたちに楽しい時を届けようと、学生たちは懸命に取り組みました。

こども保育科は、指定保育士養成施設の認定を受け、2023年度入学生から2年課程となります。

ホテル観光科

9月2日(金)、ホテル・観光業を学ぶ学生たちと熊本市長の大西一史さんとの意見交換会を開催しました。「熊本市の

観光的魅力とこれから取り組むべきこと」と題して大西さんが講話。「観光産業において地域の多様な情報を提供する人がこれから必要な人材です」とアドバイスが送られました。学生からは熊本の観光資源のポイントに関する質問や、観光業発展のための要望などが大西さんに投げかけられました。東京YMCAホテル国際専門学校との連携により都市圏での実習なども行い、学生たちは一流のサービスから様々なことを学びました。

医療秘書科

医療秘書科は日本医師会認定の医療秘書養成校となりました。認定に先立ち行われた視察の中で日本医師会常任理事の釜沼敏さんから、「医療秘書の役割は大きい。新たな日本医師会養成校の申請は、本会としてありがたく心強い。地域の医療機関で活躍する人材の育成に期待します」とメッセージが送られました。2023年度から日本医師会が定めたカリキュラムを実施し、医療現場のニーズに沿った医療秘書として重要な役割を担う人材を育みます。

健康スポーツ科

トレーナーやインストラクターを目指す健康スポーツ科2年生の3名が7月に熊本で初開催されたマッスルゲート熊本大会に出場。日頃の学びを活かし、自らもトレーニングに励んで挑んだ結果、1名がメンズフィジーク一般の部168cm以下級および大学生の部で優勝。他の2名も大学生の部2位、4位入賞と健闘しました。

建築科

2023年2月22日(水)、2年生の卒業制作発表会を行いました。構造、インテリア、模型、都市設計の各ゼミに分かれて構想から計画、試作を経て完成まで1年をかけました。うまく作品の良さをアピールできずに悔しがる学生もいれば、逆に自信がなかったのに絶賛される学生もいました。発表会後は館内に全作品を展示して好きな作品に投票してもらうコンテストを実施しました。また、2022年度に実施された一級建築士試験に5名の卒業生が合格しました。



児童福祉教育科



ホテル観光科



建築科

事業報告 Business Report

学校法人



日本語学校

Japanese Language School

コロナ禍により入学が叶わなかった留学生たちが2022年度から順次入学できるようになり、日本語学校は久しぶりに賑わいを取り戻しました。9月13日(火)、スピーチ大会を日本キリスト教団熊本草葉町教会で開催。予選を突破した8名がそれぞれの夢や日本で経験したことについて発表しました。

11月10日(木)には、初級IIクラス33名が熊本YMCA学院医療秘書科の1年生と交流授業を行いました。日本語科の参加者の多くは今年の4月に来日した学生で、日常会話はゆっくり話せば内容が理解できるレベル。10グループに分かれて自己紹介やフリートークをしながらグループ全員の共通点を見つける課題に挑みました。「全員がiPhoneユーザー」、「全員ピンクが好き」、「全員がスポーツをしている」などの共通点を見つけることができました。

幼稚園

Kindergarten

水前寺幼稚園のYっこ教室では、新たにチアダンス教室を開講。3歳から6歳までの子どもたちが参加しています。2023年3月25日(土)にははじめての発表会を開催し、子どもたちは緊張しながらも、見事なダンスを披露しました。

熊本五福幼稚園では、自分たちの畑で育てた里芋と大根をチャリティとして販売しました。3月2日(木)、大根を抱えた園児たちがYMCA本館に来館すると、大人たちが次々に購入。益金はトルコ・シリア地震募金に充てられました。



通信制

Correspondence Courses

仕事と学習を両立しながら福祉専門職の資格取得を目指す社会人を対象にした通信制の社会福祉学科と精神保健福祉学科。2022年度修了生の国家試験の合格率は、社会福祉士は55.3%(全国合格率44.2%)、精神保健福祉士は80.6%(全国合格率71.1%)と全国平均を上回りました。コロナ禍の収束状況に応じて対面授業を行うことにより受講生と顔の見える環境が戻ってきました。

放課後等デイサービス

After School Daycare

子どもたちが笑顔で活動できるよう一人ひとりのニーズに合わせた支援を行い、自身が認められる居場所をつくる放課後等デイサービス「YMCA自由なイルカたち」。2022年度は19名の子どもたちが日々たくさんの笑顔と意欲的な姿を見せてくれました。夏祭り、クリスマス会、節分など季節毎の行事で制作に取り組み、個性あふれるかわいらしい作品ができました。節分にはSDGsも取り入れ、廃材であるトイレットペーパーの芯に好きな色の色紙を貼り、鬼の顔を描いた置き物を制作しました。



事業報告 Business Report

社会福祉法人

保育園

Nursery School

尾ヶ石・赤水・永草・黒川の4保育園の年中・年長クラスでは、毎週、英語を学んでいます。2023年2月25日(土)、阿蘇の司ピラパークホテル&スパリゾートに園児たちが一堂に会して、えいご発表会を行いました。日頃の学びの成果を発表し、保護者の皆さんに子どもたちの成長を感じてもらおうと初めて企画。多くの保護者が見守る中、普段通りに元気よく発表した子どもたちは、大きな拍手を受けて大喜びでした。保護者からは、「子どもの楽しそうな姿に感動した」「コロナ禍で難しかった他の園との交流もできて良かった」などの声がありました。

永草保育園は、阿蘇市乙姫のいちご農園から招待を受け、5月26日(木)に30名の園児がいちご狩りを楽しみました。



保育園から散歩をしながらいちご園に向かうと、真っ赤ないちごに子どもたちは大喜び。おいしそうに何個もほおぼっていました。7年間続くいちご狩り。「子どもたちが喜んでくれることがいちばんうれしいです」といちご園の松本昭信さんも笑顔でした。

黒川保育園では、7月22日(金)、23日(土)の1泊2日の日程で、年長児22名がお泊り保育に挑戦。プール遊びや、カレー作り、星空観察、夜の保育園での暗闇探検を行いました。カレー作りは子どもたちが材料を切り、鍋で具材を炒めて、特製カレーが完成。大きな鍋いっぱいのカレーがあっという間になくなりました。

有限会社

ユース・コーポレーション

Youth Corporation



旅行業、損害保険業、物品販売を取扱業務とし、主に熊本YMCAで行うキャンプの企画・実施、保険のサポート、会員対象のユニフォーム販売などを行う有限会社ユース・コーポレーション。前年に続き、2023年3月31日(金)から4月3日(月)の日程で、富士山の雄大な自然と神秘的溶岩洞窟を訪ねる4日間の旅を企画し、子どもから大人まで、21名が参加しました。日本YMCA同盟東山荘のスタッフの協力のもと、登山や一般的なツアーで廻らない溶岩洞窟を訪ね、富士山の奥深い自然の魅力にふれました。

募金活動 Fundraising

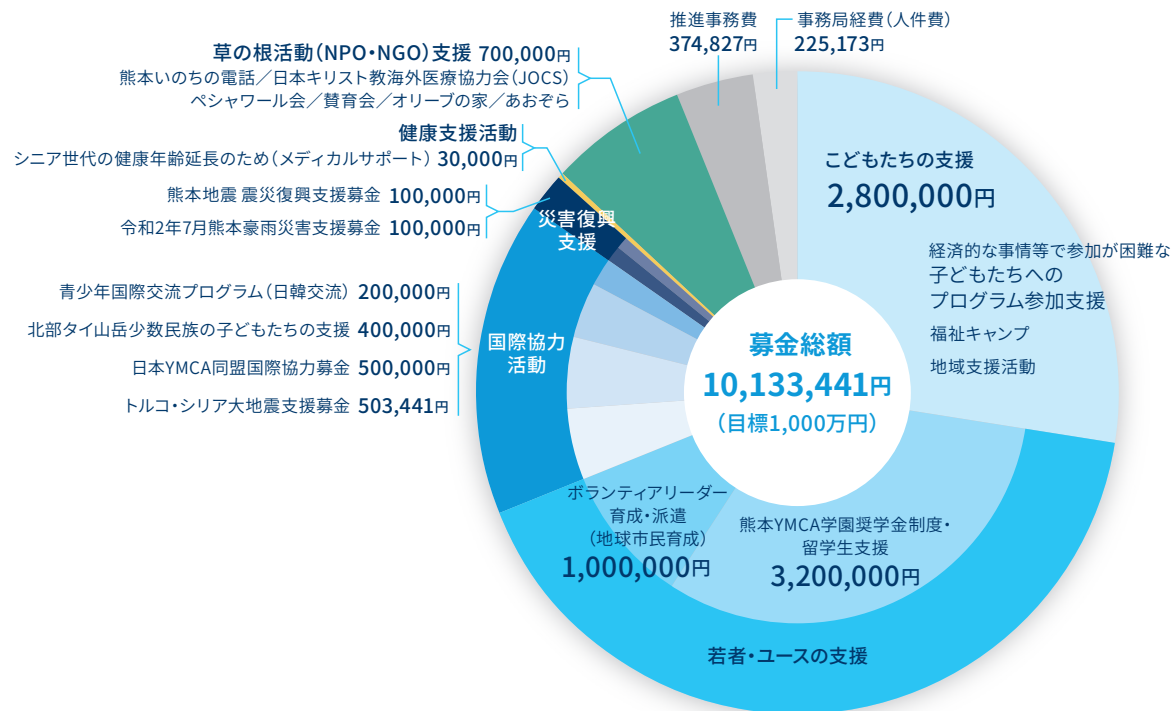
希望のある 豊かな社会づくりを目指して

YMCA年末募金

Fund Development Campaign

2022年11月1日から2023年3月31日まで取り組んだYMCA年末募金は、1000万円の目標に対して、10,133,441円の募金が寄せられました。

2月6日に発生したトルコ・シリア地震を受けて緊急支援が使途に追加され、多くの協力が得られました。



楽しみながらチャリティ YMCA祭



2019年度以来の集合開催となった前進祭



11カ所で行った街頭募金活動



クリスマス祝会もチャリティ



チャリティプログラムでスポーツ体験

助成実績 Grant-in-aid Amount

参加費減免(通年プログラム)

事業部門	件数	助成額(円)
ウエルネス	22	794,160
野外教育	13	243,920
インターナショナル	5	223,200
アフタースクール	2	41,280
YMCA学院	13	2,465,000
合計	55	3,767,560

参加費減免(春・夏・冬休み期間中プログラム)

事業部門	件数	助成額(円)
ウエルネス	2	7,000
野外教育	3	40,000
合計	5	47,000

地球市民育成(ランゲージスクール学生受講料免除)

事業部門	件数	助成額(円)
インターナショナル	18	600,460
合計	18	600,460

地球市民育成 助成

プログラム	件数	助成額(円)
ECGL※	1	102,641
合計	1	102,641

※English Camp for Global Leadership

シニア世代の健康増進 メディカルサポート

事業部門	件数	助成額(円)
ウエルネス	1	17,600
合計	1	17,600



6月19日(日) みなみセンターとながみねファミリーセンターで近隣小学校の児童を招いて行った「みんな泳げる25m運動」

Voice

参加者減免制度
利用者の声



ながみねファミリーセンター
水泳教室

藤元 結心さん(小学3年生)
美紀さん(お母様)

娘は3歳の頃から水泳教室に通っています。今年の3月からは野外活動クラブにも入会しました。私一人では、なかなかキャンプに連れて行けないので本当に助かっています。

結心が生まれて9カ月の時に夫が事故でなくなりました。参加費減免制度を使わせていただき心より感謝しています。私たちだけでなく、たくさんの人がYMCAの募金に助けられているのだと思います。自分にも出来ることがあればと思い、去年は娘と一緒にYMCAの街頭募金に参加しました。

娘には助けてもらっただけでなく、周りを助けられる人に成長してほしいです。それは国際的な活動やSDGsに取り組むYMCAの理念ともつながっていると感じています。



YMCA学院 児童福祉教育科3年
松田 海斗さん

高校生の時から保育士になると決めていました。我が家はひとり親家庭。家族を少しでも楽しめたいと思い、YMCA学院の特別奨学生制度を受けました。私は入学後に学校への提出物が遅れることもあり、今振り返るとだらしのない部分がありました。ある日、奨学生制度が募金で成り立っていることを知り、自分は、皆さんの期待を背負っているのだと分かりました。それからは、自分をもっと正していきたいと考えようになりました。奨学生制度を利用したことで、授業料が減免されただけでなく、大切なことに気づくことができました。YMCAの教室に掲示してあった「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」という言葉が印象に残っています。楽しいことだけでなく、子どもたちの喜怒哀楽すべてに寄り添える保育士になりたいです。

概況・統計 Statistics and Association Overview

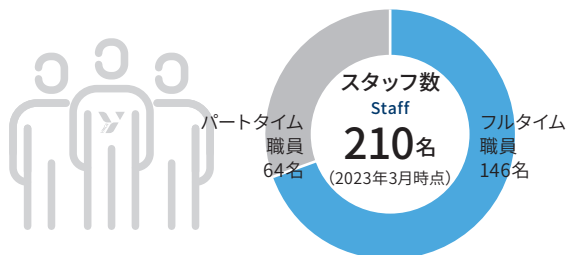
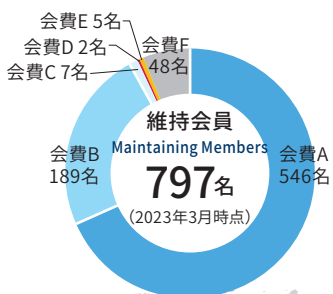
創立 Founding

熊本YMCA 75年 (1948-2023年)
 日本YMCA 143年 (1880-2023年)
 世界YMCA 179年 (1844-2023年)

拠点数 Centers 15 拠点 (2023年3月時点)

プログラム参加者 Members 5,693名 (2023年3月時点)

公益財団法人…………… 4,799名
 学校法人…………… 670名
 社会福祉法人…………… 224名



加盟 Affiliated

日本YMCA同盟(東京)
 アジア・太平洋YMCA同盟(香港)
 世界YMCA同盟(ジュネーブ)

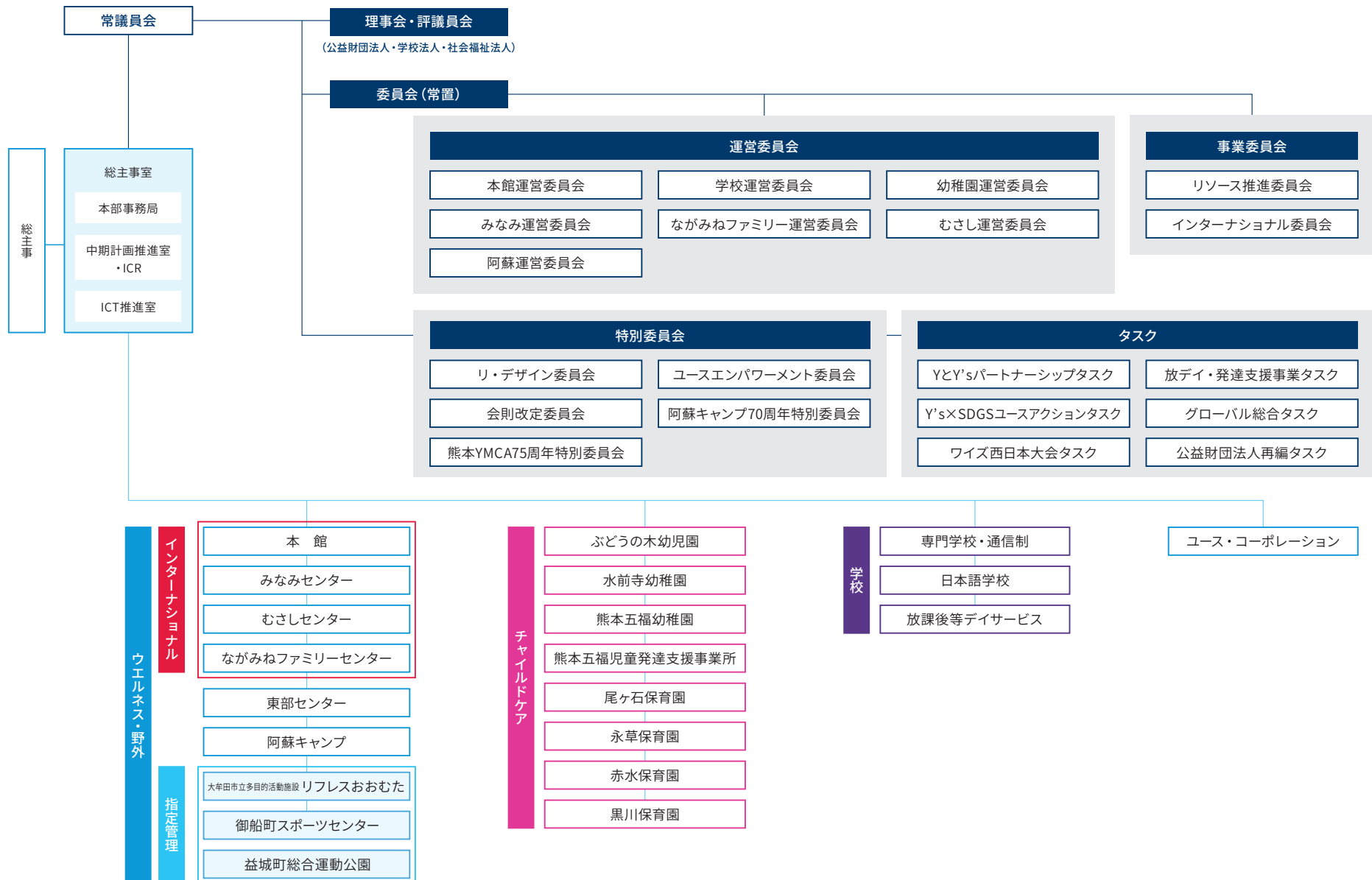
ワイズメンズクラブ Y's Men's Clubs

2023年3月時点

熊本ワイズメンズクラブ…………… 21名	阿蘇ワイズメンズクラブ…………… 16名
熊本ジェーンズワイズメンズクラブ… 33名	熊本にしワイズメンズクラブ…………… 14名
八代ワイズメンズクラブ…………… 8名	熊本Nスピリットワイズメンズクラブ… 14名
熊本むさしワイズメンズクラブ…………… 17名	熊本水前寺ワイズメンズクラブ…………… 12名
熊本みなみワイズメンズクラブ…………… 22名	熊本五福ワイズメンズクラブ…………… 13名
熊本ひがしワイズメンズクラブ…………… 11名	宮崎ワイズメンズクラブ…………… 5名

部門\拠点	本館	みなみ	ながみねファミリー	むさし	水前寺幼稚園	熊本五福幼稚園	本福園	社会福祉法人	合計
ウエルネス	成人健康	—	505	180	—	—	—	—	685
	こども健康	24	1,239	1,281	610	—	—	—	3,154
	野外	81	—	—	—	—	—	—	81
インターナショナル	成人語学	111	8	—	11	—	—	—	130
	こどもえいご	77	246	149	133	—	—	—	605
専門学校(全日制)	257	—	—	—	—	—	—	—	257
日本語学校	87	—	—	—	—	—	—	—	87
専門学校(通信制)	109	—	—	—	—	—	—	—	109
アフタースクール等	21	6	37	—	—	—	—	—	64
発達障がい支援	—	12	12	—	—	—	—	—	24
放課後等デイサービス	19	—	—	—	—	—	—	—	19
幼稚園	—	77	—	—	—	—	—	—	77
幼稚園	—	—	—	—	102	75	—	—	177
保育園	—	—	—	—	—	—	—	224	224
合計	786	2,093	1,659	754	102	75	224	—	5,693

2023年度組織 Organizational Structure



熊本YMCA役員・委員報告 Board and Committee Members

熊本YMCA常議員

2023年3月時点



麻生 尚哉



岩永 福子



上村 眞智子



佐藤 通彦



田上 正



長澤 牧人



西 章男



林田 博文



藤田 香織



本田 節子



前田 香代子



三上 充



森 博之



森嶋 道



守田 富男



両角 彰則



吉岡 久美



吉松 裕藏



吉村 千恵



吉本 貞一郎



光永 尚生

熊本YMCA役員・委員報告 Board and Committee Members

◎委員長 ○副委員長 ◇担当職員

2023年3月時点

本館運営委員会 ◎林田 博文 ○生駒 春美 岡田 茂美 小山 徹 木山 彰子 金澤 知徳
中尾 桂子 西 章男 福田 稔 北條 将人 村田紀美子 和田 修一
(守田 富男) ◇熊本四季子

みなみ運営委員会 ◎麻生 尚哉 ○岩永 福子 ○森 博之 岩瀬 英次 岩本 守弘 内村 忠生
後藤 慶次 杉野 茂人 時任幸四郎 中村 邦雄 中村 陽志 藤元 俊輔
村上 博 米倉 容子 ◇丸目 陽子

ながみね運営委員会 ◎吉松 裕藏 ○田上 裕章 ○横田 博 石橋 綾 小川祐一郎 柏原 芳則
門永 充弘 菅 正康 竹本 雄一 馬場 淑之 平山 俊生 本堀 秀一
◇木村 成寿

むさし運営委員会 ◎両角 彰則 入佐 孝三 桑原純一郎 最相 博子 田北康一郎 田上 正
林田 秀平 斐 東烈 山部 裕輝 米村 謙一 来海 恵子 ◇辻 健太郎

阿蘇運営委員会 ◎吉村 千恵 ○篠崎 泰子 内村 優 梅井 俊夫 五嶋 義行 竹原 憲朗
藤本猪智郎 藤本 義隆 松岡 省吾 武藤 興紀 ◇堤 雄一郎 ◇岡山富士男
◇本田奈緒子

幼稚園運営委員会 ◎本田 節子 ○岩本 悟 伊藤 七海 岩本 芳久 上野美恵子 白木 尚登
長澤 牧人 東 菜保子 本田 光夫 三上 充 水元 裕二 山下 和美
◇福山 裕敏 ◇井上 和美

学校運営委員会 ◎吉岡 久美 ○上村眞智子 荒木由起子 有吉 亮 岩切 和子 亀浦 正行
俵 哲 ◇中村賢次郎 ◇加藤 泰文

リソース推進委員会 ◎佐藤 通彦 秋根 年子 今村 秀夫 大崎 隆義 田中 俊夫 藤田 香織
森嶋 道 山田 芳之 ◇辻 健太郎 ◇時本 紀子

インターナショナル委員会 ◎前田香代子 木下慎太郎 坂本 美穂 立野 泰博 藤井 資子 棟方 信彦
(吉本貞一郎) ◇辻 健太郎 ◇尾道 一幸

公益財団法人 熊本YMCA

理事長 光永 尚生
理事 大久保和生 田上 正 中村賢次郎
西 章男 守田 富男 吉本貞一郎
監事 藤田 香織 森 博之
評議員 麻生 尚哉 岩永 福子 上村眞智子 長澤 牧人 林田 博文
本田 節子 三上 充 森嶋 道 両角 彰則 吉岡 久美

学校法人 熊本YMCA学園

理事長 光永 尚生
理事 井上 和美 前田香代子 吉岡 久美 吉村 千恵 吉本貞一郎
監事 守田 富男 吉松 裕藏
評議員 上村 文美 加藤 泰文 熊本 哲朗 佐藤 通彦 土山 真也
林田 博文 福山 裕敏 前田香代子 光永 尚生 宮本 昌宣
吉岡 久美 吉村 千恵 吉本貞一郎

社会福祉法人 熊本YMCA福祉会

理事長 光永 尚生
理事 岡山富士男 椎葉 朋子 高橋 壘
藤崎 三郎 二子石真弓 宮本 誠一
監事 桑本 ゆき 藤本猪智郎
評議員 五嶋 義行 坂梨 鐵男 佐藤かおり 西本 貴志
畑本 芳輝 松村由紀子 森 あい 山口 貴生
脇 澄夫



みつかる。つながる。よくなっていく。